

# 論文集刊行にあたって

専修大学都市政策研究センター代表・経済学部教授 平尾光司

2004年に発足した都市政策研究センターは文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業—イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策の提言」の研究プロジェクトを遂行する研究拠点として5年間活動してきた。所期どおり本年をもってプロジェクト期間が完了することとなった。2009年3月16日に「川崎都市白書—イノベーション先進都市川崎を目指して」を公開講座で最終報告として発表する運びとなった。

本論文集は都市政策研究センターのメンバーによる本年度の研究活動の成果論文を収録したものである。都市政策研究センターを構成するユニットごとに編集した。

都市産業ユニットのコミュニティビジネス基礎調査、社会資本整備、環境産業クラスター、都市経済政策ユニットからは川崎市の成長会計分析、川崎市の地域社会構造、都市基盤ユニットからは川崎市の交通および交通インフラの現状と課題が収録された。いずれも都市白書作成の基礎となった研究である。

また、カリフォルニア大学バークレー校のジョン・ザイスマン教授の論文「Building on the Past, Imagining the Future」の翻訳も収録した。本論文は地域イノベーションに関わるザイスマン教授を中心とするデンマーク、台湾などの研究者グループの討議をまとめたものである。経済・産業のグローバル化が進展する中で地域のイノベーション戦略のあり方を提言した内容で我々の研究プロジェクトにとっても大きな示唆を与えるものであり、ザイスマン教授のご好意で翻訳紹介することとした。なお、翻訳にあたってザイスマン教授と助手の榎田健児氏からご協力いただいたこと記して謝意を表したい。

我々が本研究プロジェクトに着手した段階では川崎市の経済・産業はバブル崩壊による景気後退とアジアへの生産拠点への移転による空洞化の問題に直面していた。都市政策研究センターのプロジェクトはこのような状況を克服する地域イノベーションによる川崎市の再生を目指すものであった。その後川崎市は世界経済の好況の中で臨海部の復活、研究機関の集積、環境技術の評価などにより再生への歩みを確実にしていた。しかし、2008年より世界同時不況によって再び厳しい環境を迎えている。その中で羽田空港の国際空港化による世界へのゲートウェイ、高度研究施設のさらなる集積、ラゾーナなど都市機能の強化、環境技術による国際貢献などの今後の成長の展望も視野に入ってきた。われわれの研究がこのような川崎市の未来への都市戦略策定にいささかなりとも貢献できれば大きな喜びである。本年をもって都市政策研究センターの活動は区切りをつけるが、今後新しい研究体制で残された研究課題に取り組んでいくことを期したい。

最後に5年間を通じて我々の研究活動に多大なご支援をいただいた川崎市、川崎市産業振興財団、川崎商工会議所はじめ関係各位に深い謝意を表したい。